

森林・林業技術交流発表会に参加しました

令和7年1月28日(火)と29日(水)に、東北森林管理局の主催により秋田市で「令和6年度森林・林業技術交流発表会」が開催されました。これは森林・林業・木材産業の活性化を推進するための情報提供・意見交換を行い、関係者の技術の普及・向上、さらには交流の推進を目的として、毎年開催されるものです。参加は東北各県、大学校、高等学校、それに森林管理局署からと幅広く参集しました。

発表課題は全部で29点です。森林技術、森林ふれあい・地域連携、森林保全(以上3部門は一般の部)、そして中学・高等学校の部と4つの部門に分かれて、多種多様かつ実務に即した研究・調査・取組の成果を発表しました。

山形署では29日(水)、『オオシラビソ林よ、甦れ ～山形蔵王における虫害からの再生への取組～』と題して、大規模な枯損被害を受けたオオシラビソ林を再生させる取組をお伝えしました。

- ・ササの繁茂が著しく、天然力だけで再生させることは困難、人為的な手段による取組を要する
- ・自生稚樹の移植は累計277本実施、生存率が94%と高いので今後、規模拡大が望まれる
- ・播種試験の結果、生存率は年ごとに大きな差がある、概ね6年で成長し激害地への植栽が可能
- ・自生稚樹へのササ刈払い・未刈払い比較調査では、刈払いは成長を促進させる効果が確認できた
- ・これらの取組は各関係機関に引き継がれ、樹氷復活を目指す県民運動として実施されている

質問と、それに対する回答は次のとおり。

【問】移植する時期のうち、秋は春・夏よりも成長量が良くないとのこと、原因は。

【答】原因はよくわからないが可能性として、移植後まもなく積雪期に入るため、春・夏と比較してより多くのストレスを受けるためではないかと考えられる。

【問】移植区域のササを刈り払った後の繁茂状況は。

【答】移植に先立ちササを丁寧に刈払った結果、数年間は成長に支障ない程度の繁茂で済んだが、令和元年と2年移植の区域は稚樹に覆い被さっていた。そのため稚樹周囲の刈払いが必要であった。

審査の結果、優秀賞を受賞することが出来ました。

オオシラビソ林の再生に向けた取組が始まって早や10年になります。わからない事が現在でも多い中、関係機関のご指導とご協力を仰ぎながら活動을続けて、今回その一端を発表することが出来ました。今後とも調査と試験を継続し、再生への道筋を少しでも早く探せるように取り組んでまいります。



稚樹の移植試験 概要



1. 掘り取り採取



2. 掘り取った土付きの稚樹



3. 移植作業



4. 移植後に杭を立てる